

## ご視聴の皆さまへ

- 配信動画および資料の著作権は、横浜市リハビリテーション事業団が保有します。
- 動画および資料の無断転載、複製、転用、販売等の二次利用は、固く禁じます。
- この配信動画は、当センター利用者の保護者の方のみ視聴可能です。
- 第三者に動画および付属資料の URL を拡散することはお控えください。



## ～子どもの就学に向けて～

### ①「学ぶ場所の選択」編



横浜市西部地域療育センター  
ソーシャルワーカー



## I. 特別支援教育について

今、障害のあるお子さん・  
発達に心配のあるお子さんの教育は、  
どのように考えられているのでしょうか？

## 特別支援教育とは

**1人ひとりの子どもの得意なことを引き出し、可能性を最大限伸ばしていきます。そのために、教育的ニーズの把握をし、多様な教育の場を用意して、全ての子どもたちに、あらゆる教育の場で、一貫した適切な指導や必要な支援を保障します。**

横浜市立学校 カリキュラム・マネジメント要領 特別支援教育編

## 市内小学校の具体的な取り組み

- ・校内委員会の設置
- ・児童支援専任／特別支援教育コーディネーターの設置
- ・「特別支援教室」（在籍する学級を離れて学習するスペース）の設置
- ・個別の教育支援計画の作成

各学校の状況に応じて、取り組まれています

## II. 小学校の現場から



小学生の生活を少しイメージしてみましょう

### ●一般級



1クラス：35人に対して担任1人

教育課程：学習指導要領

学年で指導すべき内容が決められている

配慮：座席の工夫、一斉指示の補助的声掛け

一般級では・・・

\* 45分間の一斉学習に参加する上で、授業のルールが分かり、困った時に、本人なりに表明する力が必要

\* 自分のことは自分で、が求められる

## ●個別支援学級



1クラス : 8名に対して担任1名

教育課程: 特別支援学校の教育課程も参考に、  
実態に合わせて個別に編成

配 慮 : 学習面は個別指導計画を作成  
生活面や対人関係、社会性も指導に含む

## 個別支援級では・・・

- \* 授業の区切りはお子さんの状況に合わせて
- \* 簡単な指示理解、小集団で活動する力が必要
- \* クラス運営は、在籍児童や環境面の状況で変動する
- \* 一般級との交流(交流級)は学校体制により異なる

## ●通級指導教室

対象: ①一般級に在籍し、学習が概ね理解可能  
(知的発達の遅れがない児童)  
②情緒障害、弱視、難聴、言語障害

目的: 学習上または生活上の困難の改善

指導: 週1回～月1程度 / 半日の指導  
少人数のグループ指導あるいは個別指導

\* 小学校は保護者の付添が必要(参観・面談)

一般級

5時間授業が基本  
一授業は45分間



35人 | 学級

**個別級**

授業の区切りは児童の状況に合わせて設定



8名に対し教員1名

※ 写真は一例です  
クラスの状況・授業形態により、レイアウトは様々です

## 2. 学校生活全般

一日の予定（例）

8:10	登校（送迎・登校班）
8:30	朝の会
8:45	1・2校時
	～中休み～
10:35	3・4校時
12:20	配ぜん・給食
13:00	片付・掃除・昼休
13:35	5校時
14:45	帰りの会 下校



実は、学習以外の場面でもサポートを必要とします



- 整理整頓・・・持ち物の管理、必要なものの選択
- 休み時間・移動時間・・・片付け、遊び、準備、トイレ
  - 時間を理解して行動する
  - 遊びのルールを理解する
- 当番活動・・・給食、掃除、その他の係活動
  - 役割の理解
  - 行動手順の理解

一般級の場合、学習の遅れのサポートは校内で受けられますか？

- 授業の中で
 

授業中に担任がサポートできる範囲、学校の体制として取り出し学習が組める場合にも、限界はあります。  
目標設定や教育形態の見直しが必要になる事があります
- 家庭での支援
 

お子さんの理解できている内容も大事にしましょう  
難しくなってきたな～と思ったら、無理はしないこと  
(⇒ヒントを出す、量を減らす、先生に相談する)



### 個別支援学級の勉強の教え方は・・・？

- 個別に、あるいは小集団で学習します
- 学習方法は、教科やねらいに合わせて様々
  - ・教材はお子さんの課題に合わせて使用
  - ・課題内容は、個別指導計画で確認しましょう
  - ・交流級での学習は、学校の事情ふまえて相談、何よりもお子さんの様子をみながら

## Ⅲ. 学ぶ場所の選択



### 就学相談の流れ(概要)

- 横浜市特別支援教育総合センター  
(略:特総センター)
  - ・通級指導教室
  - ・個別支援学級
  - ・特別支援学校
- 指定地区<学区>の学校長との面談

利用にあたっては  
就学相談の申し込みが必須

この前後で各学級の  
見学を・・・!

※詳しくは、特総センターHPより、就学相談の申込手続き  
についてご確認ください

### お子さんのことを振り返ってみましょう

- ・どんなことが得意・苦手ですか?
- ・学校でサポートが必要になるのはどんなこと?
  - 学習面
  - 生活面
  - 友達関係
- ・どの学級なら、サポートがうけやすそう?



## 特別支援教育を利用することについて

- ・「特別扱い」は悪いことではありません

必要な支援はお子さんによってそれぞれ・・・  
お子さんが必要な支援を受ける事について、  
まず親御さんが前向きにとらえてください

- ・「〇〇ができないから」ではなく「〇〇が学べるから」

小学校入学は、これから先も続いていく、  
お子さんの学びのスタート地点です

入学時だけではなく、節目ごとに、お子さん  
の学びの場を見直していきましょう



## ～子どもの就学に向けて～ ②「入学に向けた準備」編



横浜市西部地域療育センター  
ソーシャルワーカー



## 1.入学までの流れ

- ・学校見学
- ・校長との個別面談
- ・就学時健診(10～12月頃)
- ・入学説明会(2月頃)・学用品の購入へ

通級や個別級を希望・検討される方は、  
特別支援教育総合センターでの  
**就学相談**が必要です

- \*個別支援級(学校による)では、体験入学(2月下旬～3月)を実施しているところもあります
- \*校長との面談の時期は、各学校と相談して決めましょう  
学校により行う時期が異なることがありますが、心配はいりません

## 2. 子どものこと、どこまで伝えたい？

- 入学前は、これまでの集団生活においてお子さんを受けてきた、大まかなサポートについて伝えましょう。
- 細かい対応の工夫は、担任の先生がきまってから相談しましょう。

感覚過敏の内容・こだわり等  
配慮点・好きな事・コミュニケーション手段

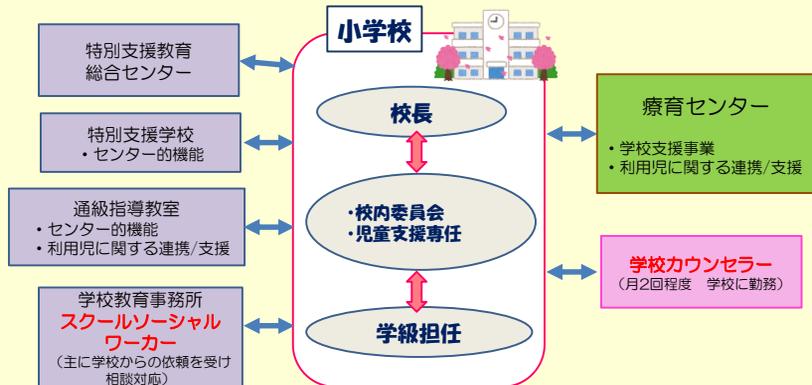
\*発達障害の理解について・  
「特別支援教育」の流れの中で、  
教員が発達障害を学ぶ機会は増えています。  
(自閉症教育 理解・啓発パンフレットの作成、研修の実施等)

## 3. 学校のことで困ったら・誰に相談する？

- 校内で (学習、生活、友人関係など)
  - ・担任
  - ・児童支援専任 (特別支援教育コーディネーター)
  - ・校長、副校長
  - ・養護教諭
- 学校カウンセラー (子育てやご家族に関する悩みの相談)
- 西部地域療育センター (医療・障害に関する対応の相談)
- 特別支援教育総合センター (教育の形態、配慮の方法)

学校の中で、相談できる人、相談しやすい人がいると安心ですね

## \* 横浜市の学校支援ネットワーク



## 4. お子さんの準備・入学前に

- ・生活リズムを整えること
- ・身の回りの事を自分なりに行う習慣  
持ち物の管理、スケジュールの意識
- ・学校に行く機会をつくる  
好きな場所、楽しみを見つけたり、少しでもイメージをもてるように、  
学校にも相談しながら、校舎や校庭で過ごす機会をもちましょう



## 5.入学後、気をつけてあげたいこと

～保護者の方の心の準備～

- 学校生活のサポート  
持ち物や提出物を揃える習慣、宿題をする習慣づくり
- お子さんの様子の確認  
学校に楽しく行けているかな？
- 学校での適応だけにとらわれず、  
**生活全体の安定**を考えること



## \* 生活全体の安定とは・・・

- 生活リズム ……睡眠や食事について、子どもなりに安定している／おうちでリラックスできる
- 家庭での役割 ……お手伝い、自信をもってできること「ありがとう」と言ってもらえること
- 放課後 ……放課後キッズクラブ  
学童保育  
放課後等デイサービス 等



- 余暇活動 ……興味・関心に合わせて  
スポーツ、音楽、電車、料理・・・



家庭内でできること  
地域のグループの活動  
一般の習い事



放課後等デイサービス（児童福祉サービス）  
の活用

**余暇の充実が生活全体を支えることもあります**

## 最後に・・・

\*お子さんにとって大事なことは日々の安心



\*ご家族も、ゆったりとした気持ちで

お子さんの成長を長い目で見守る思いで・・・お子さんの力も信じて・・・  
「困ったことがあってもどうにかなるから大丈夫」  
そんなメッセージが伝わるように、ゆったりと構えていきましょう



\*西部地域療育センターでは・・・

小学校6年生まで、ご相談に対応し、必要に応じて診察や心理もご案内しています。  
心配なことがありましたら、いつでもご連絡ください